

## 「祇園祭 大船鉾 神功皇后 御神体人形衣裳」

平成26年150年ぶりに復活する祇園祭の大船鉾。その御神体である神功皇后(人形)の衣裳・狩衣。薄く透ける地に金箔で紋様を織り上げる織技法で半年をかけて完成させた力作です。異国との戦いにも果敢に挑戦する男まさりな神功皇后を想像しながら織り上げました。

## 「夏袋帯 顕紋紗 大霞取 雪輪青海文」 顕紋紗とは、紗の地の上に平織りで地紋を表す織り方で、古くは公家方の夏装束に用いられてきた織物です。通常の紋紗は経糸2本を振らせた組織だが、これは3本の経糸を振らせたもの。夏帯に求められるしっかりとした地質と張りを実現しました。

通常の紋紗は経糸2本を振らせた組織だが、これは3本の経糸を振らせたもの。夏帯に求められるしっかりとした地質と張りを実現しました。

## 「手織りシルクタオル(新商品)」 蕨の外側の絹糸「キビソ」はセリンンと呼ばれるタンパク質を多く含み、肌に有効な性質を持っています。しかし、いびつで糸が硬いため織機にかかり難いです。本品はそんな素材の特徴を生かして開発された浴用タオルで、織り技術が問われる難しい仕事です。

「手織りシルクタオル(新商品)」 蕨の外側の絹糸「キビソ」はセリンンと呼ばれるタンパク質を多く含み、肌に有効な性質を持っています。しかし、いびつで糸が硬いため織機にかかり難いです。本品はそんな素材の特徴を生かして開発された浴用タオルで、織り技術が問われる難しい仕事です。

## 藤田 恵子

1985年大阪生まれ。高校卒業後、京都職業能力開発短期大学校で染織を学ぶ。2006年渡文株式会社に入社し、西陣織の技法を学ぶ。2012年祇園祭の大船鉾の御神体衣裳「神功皇后狩衣」の製織を手掛ける。2014年「京もの認定工芸士」認定。

〒602-8482  
京都市上区浄福寺通上立売上ル大黒町693  
渡文株式会社  
TEL.075-441-1111  
FAX.075-431-0001  
HP <http://www.watabun.co.jp/>  
Eメール [info@watabun.co.jp](mailto:info@watabun.co.jp)



## 伝統技術を受け止め

## 挑戦の心意気をつなぐ

百年以上続く西陣織の老舗「渡文」で修業し、受け継がれてきた技術を次代に引き継ぎ発展できるよう日々努力しています。平成24年には祇園祭の大船鉾の御神体・神功皇后の狩衣の製織を手がけました。「新しいものを作る時は、いくつになっても「年生」と言われた先輩の言葉を胸に、学ぶ気持ちを忘れず新しいことにも臆せず挑戦していきます。多くの人の手によってできあがる西陣織のたすきをつなぎ形にする製織に誇りと責任を持ち織り続けます。

## ◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。



京もの認定工芸士 第101号

ふじた けいこ

藤田 恵子